

## とびしま海道、しまなみ海道ツーリング記

11月11日(日)は松原単独で呉ー今治のとびしま海道を、2日目及び3日目は横山氏(49年卒)と共に今治ー大三島ー尾道のしまなみ海道を横山氏(49年卒)と共にツーリングを楽しみました。

### 初日

新横浜発6:34発のぞみ号で広島経由呉駅まで輪行で順調に着くも、数日前よりの天気予報通りの雨模様で呉駅よりは午後1時の出発となった。(前日タルタルーガのタイヤは悪天候に備え、走行の負荷が約15%増しとなるがツーリング用のトレッドパターンの深いタイヤに取り換えた。)

とびしま海道最初の安芸灘大橋を渡った下浦刈島では、たまたま行われていた呉市制110周年を記念したサイクルイベント“オレンジライド2012”の参加者に並走する形となり、次の島まで一緒に走ったが集落のおばさん達がいつまでも我々に手を振っている姿が何とも素朴で印象的でした。

但し、その後の豊島大橋は標高わずか50mとの事だがタイヤと荷物の為か予想外に上りが厳しく時速10km以下になりながら走行。今治への予定のフェリーは4時15分この海道最後の島の岡村港発。更に2つの島の橋を通過なくてはならず、時間的余裕がなくなり残念ながらのんびりとした景色楽しめず必死に飛ばすが、結局10分遅れで乗り遅れてしまった。



ようやく豊島大橋に到着

幸いその後今治への最終の小型の乗合船があり輪行にて予定のサイクリングターミナル「サンライズ糸山」に到着し宿泊出来た。この宿泊施設はロケーションも良く自転車を部屋にそのまま持ち込めJCA会員は3,700円で宿泊出来る。



岡村港より最終の小型乗合船に乗船

(初日呉駅より岡村港までの走行距離47.7km)

## 2日目

横山氏はサンライズ糸山で内装8段変速機付きレンタルサイクルを借り、9時40分に2人で出発。今治側よりのしまなみ海道の最初の来島海峡大橋は4.1kmの3連吊り橋で海拔78m。当日は晴れであったが太い吊りワイヤーがうなりを立てる程の追い風で、もし向かい風だったら自転車走行は大変厳しいと思われた。



サンライズ糸山の部屋より見られた来島海峡大橋の朝焼け



大島より来島海峡大橋



この橋に続く大島では、通常のサイクリングコースとは違う西側の海岸沿いの道をのんびりと走る。この道はNHK番組「こころ旅」でも走っていたがバラ園、造船所さらにテレビではきれいな夕日が見られた泊を通過して次の伯方島へ向かう。伯方島のサイクリングターミナルで昼食を取るが、平日の為サイクリストはさほど多くはないが男女のサイクリストのグループも見られた。

次の大三島はこの海道で最大の島。本日の宿泊地だが時間的余裕もあったので、明日渡る美しい多々羅大橋の写真を撮影後、島を1周する事とした。沿岸の道路でもアップダウンはかなりあるが好天の下、静かな海と沖に点在する小島やこの島の斜面のみかん畑脇を通り始まった紅葉も見られ最高の景色を楽しめた。大山祇神社(日本総鎮守)では何と樹齢2600年の神木の大楠もあり圧倒された。宿泊地の「大三島ふるさと憩いの家」は島の南端にあり、廃校となった木造二階建ての宗方小学校を利用した宿泊施設で、映画「船を降りたら彼の島」のメインロケ地となった処。校庭が美しい砂浜に続いている

場所で大変レトロな広い校舎に当日宿泊したのは校長室の隣のへやの我々2名のみであった。



3日目に渡る多々羅大橋を背景に



樹齡2600年の大楠



廃校を利用した大三島ふるさと憩いの家とそのすぐ左手に広がる美しい海岸

(2日目の走行距離62.2km)

### 3日目

毎朝ウォーキングをしている横山氏に連れられ、朝食前に美しい海岸やミカン畑の連なる丘を散策すると島の反対側の瀬戸内海の島々も見る事が出来意外な発見が楽しめた。

当日の午後よりは雨模様の天気予報で、早く尾道に着こうと意気込んで出発するも、最初の角を曲がると急な登りが待ち構えておりその後の10km超は連続したアップ&ダウンの連続で、もしこれが夏場であれば相当苦しいと思えた。坂道の上では常にレンタサイクルで先に上った健脚の横山氏に待っていてもらった次第。

隣の生口島の瀬戸田は日本画家の平山郁夫の生誕地で大変立派な美術館があり、少年時代の作品よりシルクロードの作品までじっくりと鑑賞する事ができた。その後は因島一向口島を経て尾道への渡船場まで30km余り。最後の因島大橋

の下にある気前の良い店主のいる店で美味しいはっさく大福を食し休憩。



渡って来た生口大橋。



休憩したはっさく大福屋から望む因島大橋

その後船着き場へと急いだが、生憎10km前で雨が降り出し雨具を付けて黙々と走らざるを得なくなった。この10kmは大変長く感じられた。尾道駅前のサイクリングターミナルでレンタサイクル返却し、尾道駅近くのホテルに着いた午後1時40分には皮肉にも雨はすっかり上がっていた。ホテルで輪行袋に入れJCAのサイクリングヤマト便でタルタルーガに保険を掛け自宅に発送して今回のサイクルツーリングは終了した。



尾道への雨の渡し船

**(3日目の走行距離56.6km／累計走行距離166.5km)**

この度のツーリングを通じての感想は

とびしま海道(5島)はイベントにぶつかなければ人も車も大変少なくコンビニもなく自動販売機もあまり見当たらない様な島々でもっと早く出発して余裕を持って走りたい場所でした。

しまなみ海道(6島)のサイクリング道路の表示は大変判り易く、各橋へのアプローチも自転車専用のループ状の小道があるが、坂道が苦手な人への配慮としては自転車ごと載せて橋まで登るエレベーターの設置があればさらに多くの人々が容易にサイクリングを楽しめる事でしょう。

いずれにしても、人工の橋や道と自然が調和した穏やかな瀬戸内海の島々はこれからも更にサイクリストが集まる場所になることでしょう。

最後に今回の計画を共に立て、一緒に丸一日半のツーリングと翌日の尾道市内の案内もしていただいた横山氏には大変感謝しております。

松原(47年卒)記